学校番号	1012

令和８年度　情報科

教科	情報	科目	情報Ⅱ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「情報Ⅱ」　（東京書籍）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

本科目では、「情報Ⅰ」で習得した情報技術の基礎を土台とし、より実践的な情報の活用方法を深く学びます。
「情報Ⅰ」が基礎的なリテラシーや操作、科学的な仕組みの理解を主眼としていたのに対し、本科目ではそれらを統合し、社会の諸課題を解決するための「設計・構築・活用」に重点を置きます。

2　学習の到達目標

「情報Ⅰ」で培った科学的な理解と基礎技術をさらに発展させ、情報技術やデータを活用して社会の諸課題を解決する「設計・構築・活用」の実践的な能力を養う。
年間の学習を通じて、単なる知識の習得に留まらず、最終プロジェクトである「客観的な根拠（エビデンス）に基づいた計画の立案」等において、「数理的な最適化」や「視覚的なデータ分析（ヒートマップ等）」を駆使し、複雑な状況下で論理的かつ最適な意思決定を行うことができる力を身に付けることを目標とする。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	情報通信ネットワークや情報システムの仕組み、暗号技術等のセキュリティの役割を理解し、GIS（地理情報システム）や統計的な分析手法を用いて、情報を適切に設計・活用するための技能を身に付けている。	実社会の諸課題に対し、収集したデータを多角的に分析・可視化することで客観的な根拠に基づいた最適解を考案し、データ駆動型の意思決定プロセス（旅行計画の立案等）を論理的に表現している。	情報技術が社会に与える影響や情報モラルを正しく理解し、グループ活動等を通じて他者と協調しながら、情報の利活用や問題解決に粘り強く、かつ自律的に取り組もうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	情報社会とコミュニケーション	○ オリエンテーション ○ 情報社会の進展と情報技術 ○ 人間の知的活動への影響 ○ メディアの特性と利用 ○ コンテンツの制作 コンテンツの発信	a: 情報技術の進展が人間の知的活動や社会構造に与えた影響を科学的な視点で理解している。 コンテンツ制作に必要なアプリケーションやツールの操作、および著作権等の知的財産権や情報法規に関する知識を身に付けている。 b: 情報技術の進展による社会の変容や課題に対し、多面的な視点から考察し、自身の考えを論理的にまとめている。 c: 情報技術の変遷や最新動向に自ら関心を持ち、社会の諸課題を情報技術で解決しようとする意欲的な姿勢を見せている。	課題制作 定期考査	課題制作 定期考査 レポート	課題制作 定期考査 レポート
2学期	データベース・情報システム	○ データベースの管理と操作 ○ データの収集と整理 ○ データの分析と分類 ○ データの整理と変換 ○ モデルの評価と検証 ○ データの分析と可視化 ○ 機械学習と人工知能 ○ 情報システムの設計 情報セキュリティ技術	a: データベースの構造や管理・操作の手法を理解し、目的のデータを抽出・整理するための技能を習得している。 データの収集から整理・変換（前処理）、分析・可視化に至るまでの一連のプロセスを、適切なツールを用いて実行できる。 b: 目的に応じた最適なデータ分析手法(分類や予測等)を選択し、得られた分析モデルの精度を客観的に評価・検証している。 c: データベースや AI といった最新技術が社会に与える利便性とリスクの両面に関心を持ち、それらを安全かつ効果的に活用しようとしている。	課題制作 定期考査	課題制作 定期考査 レポート	課題制作 定期考査 レポート

3学期	実践的な計画の立案	最終課題の制作と発表	a: 1・2学期に習得したデータ分析手法、GIS、Webサービス等の情報技術を、自らの計画立案において的確に活用している。 予算、経路、観光動態などの多様なデータを、情報システムや表計算ソフト等を用いて正しく処理・操作している。 聴衆に伝わりやすいプレゼンテーション資料（ヒートマップやグラフの適切な配置等）を、情報デザインの原則に基づいて制作している。 b: 「最適な計画」を導き出すために、複数の制約条件を考慮し、数理的・論理的な根拠に基づいた最適解を判断している。 ターゲットや目的に合わせ、収集したデータから必要な情報を取捨選択し、説得力のあるストーリーとして構成・表現している ヒートマップ等の視覚的データを用いて、主観（感想）ではなく客観的な事実（エビデンス）に基づいた選定理由を論述している。 c: 班員と役割を分担し、協調的にコミュニケーションを取りながら、期間内にプロジェクトを完遂させようと貢献している。 発表後の質疑応答や他者の発表の評価を通じて、自らの計画の妥当性を客観的に振り返り、さらなる改善点を見出そうとしている。 データの引用元を明示し、著作権や情報の信頼性に配慮しながら、誠実かつ主体的に探究活動に取り組んでいる。	課題制作 定期考査	課題制作 定期考査 レポート	課題制作 定期考査 レポート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度